

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(6月23日～6月29日)

2019年7月2日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、プーチン露大統領と電話会談(6/25)

●クレメル世銀代表、「ベラルーシ経済には構造改革が必要不可欠」(6/29)

●2019年、ベラルーシ石油精製品輸出量、昨年対比、1百万～1.5百万トン減少見通し。(6/28)

大統領動静

●ラフモン・タジキスタン大統領と会談(6/29)

両氏は、ベラルーシ・タジキスタン、戦略パートナーシップ協定に関する覚書に署名。

ルカシェンコ大統領の発言は以下の通り。

・ラフモン大統領は自分(「ル」大統領)の、そしてベラルーシ国民の友人である。

・欧州競技大会閉会式の出席に合わせベラルーシに来訪されたことは非常に嬉しい。ただ、我々にとって重要なことは、ベラルーシ・タジキスタン両国およびアフガニスタンをはじめとする第三国も交えた協力関係の深化に関する協議である。

・プーチン露大統領も交えた三者会談を行うのはいかがだろうか。CISと集団安全保障条約機構(CSTO)の枠組みで議論すべきことがある。

・ベラルーシにおいてタジキスタンとの友好庭園開設が進んでいる。同庭園において、ベラルーシではこれまで生産されていなかった農作物栽培に向けた試みが行われる。同様の試みはウズベキスタンともウリ・メロンの栽培を行い成功しており、タジキスタンとの協業でも成功を見込む。

ラフモン大統領の発言は以下の通り。

・ベラルーシ・タジキスタン二国間関係は友好的であり、前向きに発展している。

・2018年5月のルカシェンコ大統領のタジキスタン訪問において合意した事項の履行状況については非常に満足している。農業・家畜・機械製造分野においては更なる伸び代がある。

・欧州競技大会閉会式の招待および手厚い対応、歓迎、非常にありがたい。欧州競技大会という世界規模の大きな行事の開催により、国際社会に対し、ベラ

ルーシがスポーツに対し特別な配慮をしていることを証明できたであろう。

・両国民はお互いを尊敬し、愛している。我々は、ただの友達ではなく、兄弟である。両国の繁栄、両国民の生活改善に向け尽力していくつもりである。

(6/29 大統領府公式サイト)

●プーチン露大統領と電話会談(6/25)

同大統領を欧州競技大会閉会式に招待した。

(6/25 大統領府公式サイト)

内政

●ベラルーシ国民戦線党「ロシアとの統合は、ベラルーシ国家存亡に関わる危機」(6/29)

同党は、ロシアとの統合協議の中止を要請、またベラルーシ企業によるロシア企業への販売の緊急停止を主張している。さらに、同党は、統合議論が進んでいるにもかかわらず、ベラルーシ国民に統合内容の詳細が開示されていないことに懸念を表明。

(6/29)

外交

●第二回ベラルーシ・イタリア経済協力政府間協議会開催(6/25,ローマ)

ベラルーシからはシェスタコフ外務次官が参加した。同協議会では、ベラルーシ経済デジタル化や情報技術発展を中心として産業、インフラ、輸送、銀行、財務分野による協力について協議がなされた。

(6/26 ペラパン通信)

●ベラルーシ・キューバ、環境保護の分野での二国間協力に係わる相互理解の覚書署名

フディク・ベラルーシ環境大臣とモントイヤ・キューバ研究技術環境大臣が署名。

(6/25 ベラパン通信)

経済

【国内経済】

●リャシェンコ副首相、「ベラルーシ原発第一号機稼働見込みを2019年12月」と公表。

(6/28 ベラパン通信)

●リャシェンコ副首相、「ロシアとの汚染石油問題で補償問題につき合意できない場合、裁判を通じて解決する予定」と公表。

(6/28 ベラパン通信)

●7月1日より即時支払システムの仮導入開始

同システムはベラルーシ中央銀行が中心となりベラルーシ国内銀行団体とともに開発。同システム導入により、ベラルーシにある銀行の顧客へのベラルーシルーブルでの支払いが24時間週7日年間365日即座に行えるようになる。

(6/27 ベラパン通信)

●2019年5月ベラルーシ国内平均月給は1071ルーブル(4月対比2.1ルーブル減)

(6/24 ベラパン通信)

●2019年5月ミンスク市内平均月給は1472ルーブル(4月対比79ルーブル減)

(6/24 ベラパン通信)

【対外経済】

●クレメル世銀代表、「ベラルーシ経済には構造改革が必要不可欠」(6/29)

クレメル氏発言は以下の通り。

・これまで世銀は長年に亘り、ベラルーシ経済の構造改革の必要性を説いてきたが、今回の発言は以前と

は大きく異なる。

・経済不安定化を避けるには、経済構造改革が必要不可欠である。石油税操作に起因する被害をロシアから補償されない場合、ベラルーシは2021年に15億ドル、2022年には20億ドルの対外債務を新たに負うことになる。結果として、2019年から2023年の間にGDPに対する対外債務の割合が70%まで拡大する可能性がある。

・2020年から2022年にかけて、予算の収支調整のためにベラルーシは修正を余儀なくされる。これは非常に辛いことであるが、同修正を行わなければ、さらに辛い状況に陥るであろう。

(ベラパン通信 6/29)

●2019年1～5月貿易高287億727万ドル、2018年対比2%減

貿易収支は、23億905百万ドルの貿易赤字。

(ベラパン通信 6/29)

●2019年、ベラルーシ石油精製品輸出量、昨年対比、1百万～1.5百万トン減少見通し。

リャシェンコ副首相は、2018年11月1日よりロシアからの石油調達量が激減していること、また汚染石油問題が発生したことにより、ベラルーシからの石油精製品輸出が大幅に落ちる見込みと発言した。一方で、汚染石油に代わる分を受け取ることができれば石油精製品輸出量は昨年と同様となると補足説明。さらにベルネフチェヒムは、カザフからの石油購買により不足分を補填する案を検討していると公表。

(ベラパン通信 6/28)

(了)